



2021年
対市交渉

長時間勤務、現場の「穴あき」解消を、業務削減で、講師確保も少人数拡大も

枚方教組は12月2日（木）に市教委と対市交渉をおこないました。交渉では、夏に提出した要求書への回答を受け取るとともに、現場からの切実な実態、要求に基づく声を届けました。

老朽施設の改修、空調設備の改善を、水泳授業の民間活用見直しを

総合教育部への分会からの発言

- プール更衣室に隙間があり、鳥や虫が入り不潔。清潔な状態にして欲しい。
- トイレ改修で少ないトイレに殺到。水圧も低く流れずに不潔。学校ではしない、我慢する子も多く、学校で出来ず泣き出す子どもがいる。早急に改善を。
- 中学校給食の方向性今年度決めるが、保護者・教職員に説明と意見の反映を。
- 中学校の給食で負担の軽減策、配膳室の整備をして欲しい。
- 網戸がなく、オオスズメバチ、カメムシが入り授業できないことも。対策をして欲しい。
- 山に近い学校で、ストーブ併用も必要だが、図書室にガス栓がなく、たいへん寒い。
- 和式トイレまだ多い、洋式に子ども集中して、時間内に出来ない。乾式も含め対応を

総合教育部・市教委の主な回答

- プール、ガス管など、状況把握して検討したい。
- 網戸が必要な箇所について各校に照会してきたが、漏れがあるようなら学校通じて知らせて欲しい。
- トイレについては順次改修工事を進めている。
- 国の少人数学級計画で、教室の充足状況を把握して、不足にならないようにしていく。
- 水泳授業の民間活用については移動時間見守りの負担など検討して、令和4年度の検証を元に広めていく。
- 中学校給食については、懇話会で意見はもらうが、方向性を決めた上で、実施にあたってはあらためて説明、意見聞く機会設けたい。
- 空調についてはPFI事業が終了しており老朽化にもなっている。今後の方向性を委託調査して出していく。体育館の空調も検討して方向性だしていく。

菅書記長からは、水泳授業の民間活用について、移動時間などの負担どうするのか、業務改善目的なら良いが、学校にインストラクター派遣の方がより有益ではないか。施設老朽化について、令和2年3月の施設整備計画を元に進めると言うが、コロナ以前の計画で、文科省の少人数事業を含めた新しい対応可能なのか。空調設備の今後の事業についても、少人数学級などの新しい課題に対応

できるものにして欲しい。と求めました。

長時間、講師の「穴あき」解消を、ICT業務負担軽減を

学校教育部への分会からの発言

- 産休などで2名の欠員。5年は39人で少人数担当者もおらず、担任の負担大きい。講師不足は、多忙化も一因。市教委からの課題・業務減らし、小5以上に少人数拡大を。
- 2名も欠員で業務も集中した時期なのに、当該の人の研修の代理出席を求められた。欠員は市教委の責任ではないか。柔軟な対応できないか。
- タブレットのトラブルで困ることがよくある。すぐにつながるサポートデスクを充実して欲しい。ICT支援員も各校1名は常駐して対応できるようにして欲しい。
- タブレット活用、1・2年生は難しい。持ち帰りも重くてたいへん。
- タブレットから複合機印刷が直接できるように出来ないか。



市学校教育部からの回答

- 勤務状況を校長会で共有。月時間外80時間以上の職員についてはまずゼロにしていきたい。業務改善推進校と一緒に取り組み進めている。
- 業務改善のコア会議に現場の教職員も参加してもらいたい。
- 少人数学級を市独自に先行して取り組んで来た。国、府にもさらに要望していく。市独自にさらに拡充は難しく、現状維持（小4まで）で考えている。
- 講師配置について、なんとか配置するよう取り組んで来ている。市費講師については選考などが必要で2ヶ月かかる。
- 研修の形は動画、オンライン、集合など精査しながら実施している。ICTサポート員については全校に月3回訪問出来るようにした。
- タブレット年度末更新は、モデル校に児童生徒に作業させる形をためして、その結果で広げていきたい。
- 委員会の行事については陸上大会、音楽会は中止した、駅伝についても感染状況により中止する場合もあるが1ヶ月前には知らせたい。教育課程検討委員会で今後も検討していく。

業務の削減で、枚方で働きたいと思える職場の実現を

菅書記長から、ICT・タブレットの更新作業、サポートデスク、支援員など、業務改善のための民間委託の活用をこういう所に活用すべきではないか。残業時間を減らすことが強調され過ぎることのないよう、業務削減を中心に据えた働き方改革が必要。少人数学級の拡大、講師不足なども結局、仕事を減らす働き方改革問題に行き着く。先生を入れた検討を進めて欲しいと求めました。

また、交渉の中で、小学校教科担任制については、現在の時点では専科教員がつかない学校にも一律に実施をもとめるものではない点について、その旨を市教委にも確認出来ました。

最後に、位田学校教育部長から、現場の様子を聞かせていただき、尽力いただいている様子を実感した。聞かせてもらった声については、持ち帰って検討していきたい。と挨拶がありました。

枚方教組は、今後も引き続いて、現場の声を元に、職場の要求実現を求めています。

小学校・水泳授業民間活用!?

子ども、現場の負担増加の懸念、経費縮減が目的?

民間活用の「基本的考え方(案)」、中北・高陵新校はプールなしで建設!?

11月19日の教育委員協議会で今後の水泳授業民間活用について「基本的な考え方(案)」が示されています。

「基本的な考え方(案)」では、令和4年度を実証期間として検証を踏まえて、水泳授業で民間活力の活用を順次全ての小学校に広めるとしています。

具体的には、移動時間、周辺民間施設の状況、プールの老朽化程度を考えながら、民間施設で水泳授業を実施するか、難しい場合はインストラクターを学校に派遣するとしています。

高陵・中北小新校の設計に向けて、プールをはじめから設置しない案を示しています。

民間施設で授業なら現場や、子どもに大きな負担

引率・移動時間は、時間割は、評価は、事故の責任は……

民間施設へ移動しての水泳授業となれば、移動時間がかかり、授業へしわよせがいくことは明白です。引率も水泳授業中も教員が責任はあるうえ、成績も教師が行うことは変わりません。安全確保、事故の場合の責任はどうなるかも現時点では不明です。

また、民間企業の都合で撤退やプール施設がなくなればどうなるかさえ保障はありません。

市教委は実施目的として業務改善、指導力向上なども根拠に挙げていましたが、それならインストラクター派遣による実施が現場にとっても、移動負担もなく有益ではないでしょうか。

本当の狙いはプールをつぶして経費削減。

独自の少人数学級縮小など、「教育政策の縮小」にすべきではない

全国的に財政難に苦しむ自治体が、老朽化や経費負担を考えて、水泳授業の民間活用を進める例が見られるようになっていきます。市内のすべての小学校のプールを廃止する方針を決める例も出ています。これらの例では、方針に当たり様々なメリットをあげているものの、プール廃止で各校で約200万円以上の経費が減らせるとするなど、経費節減が最も大きな目的であることは明らかです。

一方で、移動のため、水泳授業を2~3時間続きに設定する必要がある。教員も引率や、授業

無理して、教科担任制しなくてよかったんだ!!

(対市交渉参加者の感想から)

対市交渉後の参加者の交流で、「教科担任制、無理してやらなくていいんだ。うちは、校長が来年から教科担任制になるからと、苦勞して時間割をやりくりしながら、担任同士の持ち合いで来年に向けて、実施していた」との声が出ていました。

市教委も現時点では、専科教員の配置がない中で、一律に実施を求めるものではない旨を確認しており、交渉に参加した分会でも、多くが担任の授業もちあいなどの形で無理して今年実施していないとわかり、改め驚いていました。

※ 指導、評価に当たる必要がある。年間カリキュラムが大きく変わり、民間施設との調整に左右されるなどの課題があるとされています。

「何か新しいことするなら何かを減らす」ことが不可欠であり、「(予算の)何か削るならその分ほかに増やす」ことも示していません。小5への少人数学級独自スライド、小学校教科担任制のための「独自の加配」なども打ち出すことなく削減するなら、「教育政策の縮小」に他なりません。

枚方こども会議 「財政負担なく小5へ拡充を」 枚方市議会へ少人数学級拡充求める要望書を提出

枚方教組も加わり、枚方の個人や市民団体などをつくる「枚方子ども会議」は、11月30日に枚方市議会議長あてに、「枚方の少人数学級のさらなる拡充を挿入に実現する要望書」を提出しました。市議会の各会派にも要望書・資料を渡して協力を求めています。

要望書では、政府・文部省が「小学校全学年へ35人学級拡充」を打ち出しており、枚方市議会でも2020年9月に「新しい生活様式を踏まえた少人数学級編成の実現を求める意見書」が全会一致で採択されており、少人数学級の拡充は差し迫った課題であるとしています。

また、来年小3に国の予算で35人学級が拡大され、枚方独自の35人学級で小3の分の予算を小5に振り向けるだけで、拡充が可能として実現を求めています。

来年度小5でのクラス数、クラス人数変化試算			
市教委資料から	現小4児童数	来年小5でのクラス数	小4⇒小5の1クラス人数増
さだ小	75人	3⇒2クラス	25人⇒38人
香里小	113人	4⇒3クラス	28人⇒38人
開成小	80人	3⇒2クラス	27人⇒40人
五常小	76人	3⇒2クラス	25人⇒38人
山田小	36人	2⇒1クラス	18人⇒36人
樟葉北小	38人	2⇒1クラス	19人⇒38人
船橋小	78人	3⇒2クラス	26人⇒39人
菅原東小	155人	5⇒4クラス	31人⇒39人
山田東小	36人	2⇒1クラス	18人⇒36人
西長尾小	76人	3⇒2クラス	25人⇒38人

来年度、11小学校の小5で クラス減・クラス人数急増

枚方子ども会議が要望書とあわせて提出している資料では、市教委が少人数学級を拡充しなければ、来年4月から11小学校の小5で、クラス数が減少し、1クラスの人数が急増する実態が示されています。

ゆとりの中で、子どもたちに向き合える教育を実現するためにも、声を広げていきましょう。

少人数学級、子どもも教師も良いことしかない!!

小4で18人学級で授業してるが、良いことしかない。〇ツケなどもすぐ終わり、子どもの話をホントにしっかり聞ける。懇談でも、子どもの顔を思い浮かべながら準備できる。市教委は一定規模必要というけど、体育などホントに生き生きと活動する。研究授業の時でも一人一人しっかり発言できる。人間関係も良くてゆったりしてトラブルが少ない。手がかかる子もいるが、18人なら頑張れる。不登校の子もいない。産休の先生の代替も、市教委は難しいとっていたが、管理職のつてですぐに来てくれた。少人数なので動きやすいことが大きいのではないかと。
(対市交渉参加者の感想から)